

授業科目名： 国語	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鬼頭(大原)七美、三藤敏樹、 増田修治			
担当形態： オムニバス						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校及び中学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	小学校：教科に関する専門的事項 国 語（書写を含む。） 中学校：教科に関する専門的事項 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）					
授業のテーマ及び到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や漢字について基礎力を高め、授業展開のための知識を身につける。 ・日本語と語彙、文法についての歴史的変遷を理解する。 ・「国語」という教科内容の今日的な課題及び「国語」を教える場合のポイントについて整理する。 ・作品を読み取るための基本的な方法について理解する。 						
授業の概要						
<p>小学校の教員免許および中学校国語の教員免許を取得する上で必須となる「国語」についての理解を深め、知識の習得を目指す。受講生自ら、小学校および中学校で学ぶ漢字や言葉そのものへの関心を高め、子どもたちの積極的な学びを動機づけるような授業展開を行う前提となる知識を習得する。また、詩や短歌、俳句などの韻文、物語や小説などの散文の各ジャンルにわたって文学的作品を読解する面白さを体感する。さらに、文法の時代的変遷をも確認しつつ、教員となる心構えを養う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(鬼頭七美/1~4回、増田修治/5~7回) 主に小学校の国語</p> <p>(三藤敏樹/8~14回) 主に中学校的国語</p> <p>(鬼頭七美・三藤敏樹/15回目) 小学校・中学校的継続性</p>						
授業計画						
<p>第1回：ガイダンス（「国語」とは）（鬼頭）</p> <p>第2回：漢字について①（漢字の成り立ちと学年別漢字配当表について）（鬼頭）</p> <p>第3回：漢字について②（漢語と和語について）（鬼頭）</p> <p>第4回：言葉について①（同音異義語と言葉遊び）（鬼頭）</p> <p>第5回：言葉について②（詩的言語）（増田）</p> <p>第6回：物語について①（小学校低・中学年の教科書の中の物語作品）（増田）</p>						

第7回：物語について②（小学校中・高学年の教科書の中の物語作品）（増田）
第8回：「話すこと・聞くこと」の言語活動と今日的な課題（三藤）
第9回：「書くこと」の言語活動と今日的な課題（三藤）
第10回：「読むこと」の言語活動と今日的な課題（三藤）
第11回：「言葉の特徴や使い方」について（言葉の働き、漢字、語彙、表現技法など）（三藤）
第12回：「情報の扱い方」について（情報と情報との関係、情報の整理）（三藤）
第13回：「我が国の言語文化」について（古典、言葉の由来や変化、読書）（三藤）
第14回：「書写」について（毛筆やその他の筆記具、楷書と行書など）（三藤）
第15回：国語のまとめ（小中の継続性）（鬼頭・三藤）

テキスト

文部科学省編『小学校学習指導要領解説 国語編 平成29年7月』（東洋館出版社、2018年2月）

文部科学省編『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（東洋館出版社、2018年3月）

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業への参加態度・貢献度 20%、リアクションペーパー 20%、テスト 60%。

リアクションペーパーや課題について、返却や講評を行うことを通じてフィードバックしていく。

授業科目名： 社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 尾崎（谷）万帆子、森清隆 担当形態： オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社 会					
授業のテーマ及び到達目標						
①小学校学習指導要領（社会編）の学年別の目標と内容が分かる。 ②先人の授業実践に学び、指導計画や学習指導案作成のための基礎的・基本的な力を付ける。 ③子どもが意欲的に取り組む授業づくりの方法とその学習内容が分かる。 ④公民としての資質・能力を育成することの意味が分かる。						
授業の概要						
①小学校学習指導要領（社会編）を3～6年毎に資料を参考にしながら解説する。 ②教科書と学習指導案及びその資料等をとおして、授業の様子が分かる。 ③小学校の今日的な課題を紹介し、小学校の教員としての心構えに気づく。 ④公民としての資質・能力の基礎を育成することの意味について解説する。 前半8回では、森が学習指導要領をもとに各目標・内容の解説する。 後半7回では、尾崎が社会科を教えるにあたり必要な基礎的知識の確認と教授をする。						
授業計画						
第1回：オリエンテーション　社会科とは何か。社会科の意義と役割、歴史的変遷について 現行の学習指導要領　小学校社会の教科目標の理解(森)						
第2回：第3学年の目標と内容　・市を中心とする地域社会に関する内容(森)						
第3回：第4学年の目標と内容　・県を中心とする地域社会に関する内容(森)						
第4回：第5学年の目標と内容①　・我が国の国土の様子と国民生活に関する内容 ・我が国の自然環境と国民生活に関する内容(森)						
第5回：第5学年の目標と内容②　・我が国の農業や水産業における食糧生産に関する内容 ・我が国の工業生産に関する内容　・我が国の産業と情報との関わりに関する内容(森)						
第6回：第6学年の目標と内容①　・我が国の政治の働きに関する内容 ・グローバル化する世界と日本の役割に関する内容(森)						
第7回：第6学年の目標と内容②　・我が国の歴史上の事象に関する内容(森)						
第8回：社会科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」(森)						

第9回：日本国憲法の基本原理（尾崎）

第10回：国の統治機構①

国会・内閣・裁判所それぞれの機関の役割と三権相互の関連についてまとめる（尾崎）

第11回：国の統治機構②

前回まとめた内容（三権分立と三権相互）についての発表と講評（尾崎）

第12回：地方自治と租税の仕組み①

地方自治の基本原理と、国政との関係について確認する

地方自治の具体的な働きについてまとめる（尾崎）

第13回：地方自治と租税の仕組み②

前回まとめた内容（地方自治とは）についての発表と講評（尾崎）

第14回：国際社会①

国際的な社会問題を踏まえたうえで、国際連合の働きを確認する

国連機関等についてまとめる（尾崎）

第15回：国際社会②／後半のまとめ

前回まとめた内容（国際社会や関連する国際機関）についての発表と講評（尾崎）

筆記試験

テキスト 『小学校学習指導要領（平成29告示）解説・社会編』文部科学省

『小学 社会 3年 4年 5年上下 6年上下』教育出版

参考書・参考資料等

その他、必要な資料を配布する。

学生に対する評価

【評価方法】

(森担当部分)

- ・平常点（レポート等） 10%
- ・前回授業内容に関する授業内試験（ミニテスト） 20%
- ・前半終了時の試験 20%

(尾崎担当部分)

- ・平常点 10%
- ・授業内のプレゼンテーション 20%
- ・最終回に実施する試験 20%

【フィードバックの方法】

授業内で適宜行う

授業科目名： 算数	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加川博道 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 算 数					
授業のテーマ及び到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・算数科の目標、内容、考え方について概要を把握し、その意義について理解を深める。 ・教育の目的および子ども（人間）の成長・発達の特性に即して、教科教育の役割、算数教育の役割について理解を深める。 ・算数科の特徴を理解し、子どもの思考の特徴や発達段階を踏まえた学習の在り方についての理解を深める。 ・教育および算数教育の今日的な課題についての理解を深めるとともに、多様な思考を促し、仲間を信頼し、自己肯定感を高め、問題解決力を高める授業の在り方について理解を深める。 						
授業の概要						
<ul style="list-style-type: none"> ・算数教育の4領域に基づいた具体的授業実践例を通して、算数科の意義や目的を知り、子どもたちとともに授業を創る上でよりよい内容と方法について考察する。 ・その際、参考となる重要な事柄は、数学の歴史の中にある。実践に沿って適宜歴史的事柄について取り上げる。 ・基本的に講義形式で行うが、グループでの作業や討議、発表などを隨時行う。 ・授業後に、リアクションペーパーに感想や意見、質問などを記述し、提出する。それは次回にフィードバックする。 ・演習として1時間の授業案を書く。 						
授業計画						
<p>第1回：・講師の自己紹介と講義の概要について（「算数教育の4領域」との関連）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら学んできた算数の授業について振り返る。 ・教育の目的および子どもの成長発達の道筋と教育課程、その中の教科教育並びに算数教育の役割について考える。 ・算數数学とはどんな学問か。「生活」に根ざし「量」に基づく算数教育の大切さについて考える。 <p>第2回：<1年生の授業から：数の導入・0の発見・十進位取り記数法>～A「数と計算」領域～</p>						

- ・教科書ではどうなっているか。
 - ・実際の授業について～それまでの幼児教育および「数の歴史」と関連付けながら～
- 第3回：<1～3年の授業から：繰り上がりのあるたし算・繰り下がりのあるひき算・多位数の加減算>～A「数と計算」領域～
- ・教科書ではどうなっているか。
 - ・実際の授業について～学級づくりと授業・子どもが発見する授業・操作と計算～
- 第4回：<1・2年の授業から：かさ・長さ>～C「測定」領域～
- ・教科書ではどうなっているか。
 - ・実際の授業について～身の回りから「算数」を発見する・「算数」を創る～
- 第5回：<2年生の授業から：かけ算>～A「数と計算」領域～
- ・教科書ではどうなっているか。
 - ・実際の授業について～学ぶとは自らのこれまでの体験を算数の概念で整理すること～
- 第6回：<3年生の授業から：小数>～A「数と計算」領域～
- ・教科書ではどうなっているか。
 - ・実際の授業について（DVDを見る）～自分たちの発見を数学の歴史の中に見い出す～
- 第7回：<3・4年生の授業から：わり算>～A「数と計算」領域～
- ・教科書ではどうなっているか。
 - ・実際の授業について～物の動きが計算の手続きを決める：量と数の関係～
- 第8回：<4・5年生の授業から：小数のかけ算・わり算>～A「数と計算」領域～
- ・教科書ではどうなっているか。
 - ・実際の授業について～小数点の位置の決め方（量感覚の役割）～
- 第9回：<3～5年生の授業から：分数の導入から加減算まで>～A「数と計算」領域～
- ・教科書ではどうなっているか。
 - ・実際の授業について～「分数」は数概念の拡張である～
- 第10回：<5年生の授業から：平面図形の面積>～B「図形」領域～
- ・教科書ではどうなっているか。
 - ・実際の授業について～「公式」をみんなで見つける～
- 第11回：<6年生の授業から：分数のかけ算・わり算>～A「数と計算」領域～
- ・教科書ではどうなっているか。
 - ・実際の授業について～量（図）を手掛かりにしながら計算規則を見つける～
- 第12回：<5・6年生の授業から：単位当たり量（速度・密度）>～C「変化と関係」領域～
- ・教科書ではどうなっているか。
 - ・実際の授業について～体験を通して学ぶ・学びが社会とつながる～
- 第13回：<5・6年生の授業から：円の面積と円周率>～B「図形」領域～

- ・教科書ではどうなっているか。
- ・実際の授業について～円周率の発見：自分たちのやり方を数学史に照らし合わせながら検証する～

第14回：<演習：自分で授業をデザインしてみる～1時間の授業案を描こう～>

- ・ある単元の1時間の授業をイメージし、授業案を描いてみる。

第15回：<まとめ>

- ・書いた授業案の交流。
- ・算数教育の今日的課題について。
- ・講義全体をふりかえって～感想・意見など～

テキスト

特はない。授業レジュメに沿って学習を行う。必要に応じて映像などを含めた資料を提供する。

参考書・参考資料等

- 『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説<算数編>』(文部科学省、各最新版)
- 『文科省検定済み教科書』(各社)
- 『こまったときの算数の教え方シリーズ<1年生～6年生>』(大月書店／1年：山野下とよ子・2年：何森和代・3年：渡辺靖敏・4年：市川良・5年：沼田喜代三・6年：加川博道)
- 『子どもをかしこくするよくわかる算数の授業全4巻』(日本評論社／銀林浩・増島高敬・加川博道編)
- 『数学入門（上・下）』(岩波新書／遠山啓著)

学生に対する評価

- ・毎時間のリアクションペーパーの提出およびその内容（40%）、演習問題（1時間の授業案作り）（40%）、授業の最後に書く全体をふりかえっての感想（20%）で評価する。
- ・レポートは授業内で配布する評価ルーブリックに基づき評価する。
- ・課題・レポートについては添削して返却する。

授業科目名： 理科	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中林俊明 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 理 科					
授業のテーマ及び到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・理科の基礎的・基本的な知識・技能を習得する。 ・初等教育における「理科」の内容について理解する。 						
<p>授業の概要</p> <p>理科の内容に関わる基礎的・基本的な知識を概観し、観察・実験・演習問題を通して理解を深めていく。また、学習指導要領や教科書から、理科の内容とその構成について考察する。</p> <p>さらに、理科を担当する教員としての知識を高めるため、国立科学博物館にて最新の情報を収集する。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 小学校理科について</p> <p>第2回：小学校第3学年理科「物質・エネルギー」の目標と内容</p> <p>第3回：小学校第3学年理科「生命・地球」の目標と内容</p> <p>第4回：小学校第4学年理科「物質・エネルギー」の目標と内容</p> <p>第5回：小学校第4学年理科「生命・地球」の目標と内容</p> <p>第6回：小学校第5学年理科「物質」の目標と内容</p> <p>第7回：小学校第5学年理科「エネルギー」の目標と内容</p> <p>第8回：小学校第5学年理科「生命」の目標と内容</p> <p>第9回：小学校第5学年理科「地球」の目標と内容</p> <p>第10回：小学校第6学年理科「物質」の目標と内容</p> <p>第11回：小学校第6学年理科「エネルギー」の目標と内容</p> <p>第12回：小学校第6学年理科「生命」の目標と内容</p> <p>第13回：小学校第6学年理科「地球」の目標と内容</p> <p>第14回：国立科学博物館での理科学習内容の収集</p> <p>第15回：講義全体のまとめ（初等教育「理科」の現状と課題）</p> <p>筆記試験</p>						

テキスト

「小学校学習指導要領解説 理科編」(文部科学省、大日本図書) [最新版]

「学習指導要領対応小学校理科観察実験セーフティマニュアル新訂版」

(大日本図書教育研究室著、大日本図書)

参考書・参考資料等

参考文献：『新しい科学論「事実」は理論をたおせるか』村上陽一郎著（講談社）

学生に対する評価

授業への参加・貢献度10%，筆記試験60%，レポート・小テスト30%から評価する。

レポートは授業内で第1回目に配布するレポート評価ループリックに基づき評価する。

課題・レポートは添削して返却する。

授業科目名： 生活	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中林俊明 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 生 活					
授業のテーマ及び到達目標						
<p>1. 学習指導要領をふまえて、生活科の目標や学習内容を理解する。</p> <p>2. 今日の児童を取り巻く生活環境について様々な角度から考え、生活科における学びの意味を理解する。</p> <p>3. 生活科における学習材について、実際の探索や制作などを通して、深く理解する。</p> <p>4. 小学校教育における生活科の役割について、幼児教育との連携・接続、就学期における合科的な指導、中学年への接続などの点から理解する。</p>						
授業の概要						
<p>生活科が設置された経緯をふまえ、学習指導要領をふまえて生活科の目標と内容、活動の特徴を講じる。探索や制作などの活動を行い、学習材の特性やその活用について、受講生同士、議論しながら学ぶ。その経験をふまえて、生活科暦を作成したり、幼児教育との連携・接続などを学び、生活科の役割について理解を深める。なお、実際によく活用される生活科の学習の場として、東京国立博物館を予定している(社会情勢により変更の可能性あり)。</p>						
授業計画						
第1回：授業ガイダンス、生活科設置の経緯						
第2回：生活科改訂の趣旨と教科の目標						
第3回：生活科の内容構成						
第4回：生活科の学習研究① 学校生活に関わる活動：学校探検						
第5回：生活科の学習研究② 身近な自然と季節の探索						
第6回：生活科の学習研究③ 地域に関わる活動(1)：地域の生活						
第7回：生活科の学習研究④ 地域に関わる活動(2)：公共物や公共施設の活用						
第8回：生活科の活動計画：生活科暦の作成						
第9回：生活科の学習研究⑤ 学外授業「博物館探検」						
第10回：幼児教育と小学校教育をつなぐ生活科の実践						
第11回：生活科の学習研究⑥ 遊びに使う物の制作						

第12回：生活科の学習研究⑦ 家庭生活と自分

第13回：生活科の学習研究⑧ 自分自身の成長を振り返る

第14回：学習研究の発表と交流 「生活科の学習研究」の振り返り

第15回：まとめ：今後の生活科への展望

テキスト

文部科学省 (2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説：生活編』東洋館出版社。

野田敦敬ほか(2020)『たのしいせいかつ上・下』大日本図書。

その他、適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

原田信之ほか(2014)『気づきの質を高める生活科指導法』東洋館出版。

その他、適宜、紹介する。

学生に対する評価

生活科教育の目的や内容、特性や役割についての理解度(レポートや小テスト 50%)と、生活科で用いる教材や素材についての理解と活用の程度(作品やレポート 50%)の2点について総合的に評価し、最終成績とする。授業において、隨時、解説やコメントを行う。

授業科目名： 小学校音楽	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本由紀子			
			担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 音 楽					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>音楽は専門用語も多く、その理解は一定の基礎知識を要する科目である。音楽科を指導するに当たって、音楽科の内容についての理解が必要である。音楽科の中で、学習指導要領が考えていることを踏まえながら、実際に活動を提案してみる経験を積む。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>小学校音楽科の内容である表現、鑑賞領域の実践的内容について理解する。指導法の授業では指導要領の理解や指導案の書き方などが中心となるため、その前に小学校音楽科とはどういうものであるかを体感・理解することを目的とする。音楽は言葉だけでは伝わりにくいものであることから、実際に聴く、歌う、演奏するなどの演習が重要である。基本的にはグループでの活動や発表を通して、新しい発見や課題を交換していく、相互の理解・技能向上を目指す。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、小学校音楽科について、歌唱活動実践</p> <p>第2回：歌唱教材研究発表①（1、2年生共通教材）</p> <p>第3回：歌唱教材研究発表②（3、4年生共通教材）</p> <p>第4回：歌唱教材研究発表③（4、5年生共通教材）</p> <p>第5回：歌唱教材研究発表④（5、6年生共通教材）</p> <p>第6回：器楽活動実践</p> <p>第7回：器楽活動発表①（1～3年生対象）</p> <p>第8回：器楽活動発表②（4～6年生対象）</p> <p>第9回：音楽づくり実践</p> <p>第10回：音楽づくり発表①（1～3年生対象）</p> <p>第11回：音楽づくり発表②（4～6年生対象）</p> <p>第12回：鑑賞実践</p> <p>第13回：鑑賞教材研究発表①（1～3年生対象）</p> <p>第14回：鑑賞教材研究発表②（4～6年生対象）</p>						

第15回：小学校における音楽教育のまとめ

テキスト

最新 初等科音楽教育法、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社

参考書・参考資料等

適宜指示する

学生に対する評価

提出物70%，発表の内容30%。

【フィードバックの方法】発表時には授業内で随時コメントします。また、フィードバックシートでもコメントをします。提出物の評価については希望者には個別に対応します。

授業科目名： 図画工作	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 清家颯			
			担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 図画工作					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>造形表現を指導する教師の要件（①子どもの造形表現活動に多様な意味を見出すことができる、②子どものつくること/あらわすことという出来事の質や意味を理解することができる、③子どもの表現の可能性をひろげ、保障するための柔軟な身体を備え、世界に対してひらくれている 等）について、一人ひとりが活動を通して実感的に理解することができる。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、演習と振り返りを通して、子どもの造形表現活動を共感的に支援するために必要な資質を身に付けることを目指します。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション：図画工作の扉をひらく</p> <p>第2回 描くことの意味の捉え返し：フリードローイング</p> <p>第3回 つくりかえる：画面の再構成とその意義</p> <p>第4回 記憶を素材に：出来事をめぐって</p> <p>第5回 リフレクションⅠ：相互鑑賞と第2～第4回の活動のまとめ</p> <p>第6回 誰かに伝えるー届ける：つくることにおける他者の現れ</p> <p>第7回 まねること：遊びの基本のかたちとして</p> <p>第8回 材料と対話して：かかわること・はたらきかけること</p> <p>第9回 身体と表現の可能性のひろがり：装いと想像力</p> <p>第10回 リフレクションⅡ：相互鑑賞と第6～第9回の活動のまとめ</p> <p>第11回 主題の立ち上げ：新たな〈わたし〉との出会い</p> <p>第12回 場の変容：つくることとみることの関係、展示の工夫</p> <p>第13回 協働・共同制作①：ものと時間、その変化をとらえて</p> <p>第14回 協働・共同制作②：関係性のなかでつくることの意味</p> <p>第15回 リフレクションⅢ：相互鑑賞と第11～第14回の活動のまとめ</p> <p>定期試験は実施しない（最終レポートに代える）</p>						

テキスト

『小学校学習指導要領解説－図画工作編』（平成29年3月告示 文部科学省）ほか

参考書・参考資料等

必要に応じて、適宜資料を配布する。

学生に対する評価

【評価方法と割合】「出席＝参加（3点×15回）」、「制作（作品を含む）－感想文（4点×課題数）」、「最終レポート（15点）」を総合的に評価します。

【評価規準・評価基準】各授業で提示する到達目標（及びループリック）に基づきます。

【フィードバックの方法】主に授業中にコメントします。

授業科目名： 家庭	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 庭野晃子、林薰、福留奈美
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 家 庭		
授業のテーマ及び到達目標	<p>小学校教育の家庭科の意義と内容を理解する。</p> <p>小学校家庭科でとりあげる家族、地域、衣食住生活、消費生活、環境保護などについて理解を深めます。</p>		
授業の概要	<p>学校教育における家庭科の意義、小学校家庭科の目的・内容にふれ、教員採用試験に役立つ家庭科の知識を修得する。また、受講者の意向を踏まえ、家庭科指導に必要な技能習得についても取り入れていく。</p> <p>第1回から5回を庭野、第6回～10回を福留、第11回～15回を林が担当する。</p>		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 初等教育における「家庭」について（庭野）</p> <p>第2回：家族・家庭生活① 自分の成長と生活（庭野）</p> <p>第3回：家族・家庭生活② 家庭生活と仕事（庭野）</p> <p>第4回：家族・家庭生活③ 家族と地域の人々との関わり（庭野）</p> <p>第5回：家族・家庭生活④ 家庭生活、家族と地域の関わりについて振り返る（庭野）</p> <p>第6回：衣生活① 生活を豊かにするための布を用いた製作 準備（福留）</p> <p>第7回：衣生活② 生活を豊かにするための布を用いた製作 製作（福留）</p> <p>第8回：衣生活③ 生活を豊かにするための布を用いた製作 発表（福留）</p> <p>第9回：住居 快適な住まい（福留）</p> <p>第10回：消費生活・環境（福留）</p> <p>第11回：衣食住の生活（食）における目標と内容についての理解（林）</p> <p>第12回：衣食住の生活（食）「日常の食事と調理の基礎」（林）</p> <p>　①食事の役割(ア)(イ) ②-1栄養を考えた食事(ア)</p> <p>第13回：衣食住の生活（食）「日常の食事と調理の基礎」（林）</p> <p>　②-12栄養を考えた食事(イ) ②-3栄養を考えた食事(ウ)</p>		

第14回：衣食住の生活（食）「日常の食事と調理の基礎」（林）

③調理の基礎(ア)～(オ)

第15回：まとめ（食事、栄養、調理について）（林）

定期試験は行わない。

テキスト

「小学校学習指導要領解説 家庭編」文部科学省

参考書・参考資料等

教員採用試験 参考書シリーズ 東京都の家庭科参考書 協同教育研究会編 2022年度

学生に対する評価

庭野：平常点40%、製作・発表40%、提出物20%

福留：平常点40%、製作・発表40%、提出物20%

林：提出物から各項目の達成度を総合的に評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

【フィードバックの方法】リアクションペーパーに対するリプライ、発表時に講評します。

授業科目名： 小学校体育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安倍大輔 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体 育					
授業のテーマ及び到達目標						
学習指導要領における体育の位置付けを理解し、体育指導に必要な知識と技術を身につける。						
授業の概要						
教科としての体育の学習内容について、その歴史を学ぶとともに、現代の子どものからだに関する問題を念頭に置きつつ、体育を教科として行うことの意義について学ぶ。また学習指導要領で示されている学年と領域ごとの目標を理解し、その後の「体育科指導法」の授業で指導案作成と模擬授業を行うことを意識しながら、小学校体育で教材とされている様々なスポーツ種目のルールや特徴を理解し、実際にそれらを経験する。その際にはグループでの活動を基本とし、他の学生と意見交換をしながら学びを深めていく。						
授業計画						
第1回：体育とは						
第2回：子どもの発育・発達と運動・スポーツ						
第3回：学習指導要領における体育の内容とねらい						
第4回：学校教育における体育の歴史						
第5回：スポーツの歴史と現代のスポーツを取り巻く諸問題						
第6回：運動部活動について						
第7回：現代の子どもの体に関する問題について						
第8回：体育の学習指導案について						
第9回：学年に応じた体育の学習内容と指導（体つくり）						
第10回：体つくり運動の実践						
第11回：学年に応じた体育の学習内容と指導（ボール運動）						
第12回：ボール運動（ゴール型）の実践						
第13回：ボール運動（ベースボール型）の実践						
第14回：ボール運動（ネット型）の実践						
第15回：小学校における体育科教育のまとめ						

定期試験は実施しない
テキスト なし
参考書・参考資料等 <ul style="list-style-type: none">・文部科学省「小学校学習指導要領」平成29年・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」平成29年
学生に対する評価 【評価方法】 中間レポート課題 40% 期末レポート課題 60%
【評価基準】 <ul style="list-style-type: none">・学習指導要領における体育のねらいや目標を理解しているか。・体育で行われる運動・スポーツの特性を捉え、それを教材としてどういったことを学ぶことができるのかを考えることができるか。・小学校で体育を教科として行うことの意義を自分なりに考えることができているか。

授業科目名： 外国語	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 執行智子			
			担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 外国語					
<授業のテーマ>						
絵本・ナーサリーライム・文学作品を味わい理解することを通して、小学校英語教育を実施するため に必要な英語の言語的知識及び英語文化の背景知識、さらに第二言語習得に関する知識、授業実践に 必要な英語力を育成する。						
<到達目標>						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語に関する基本的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）を身につける 2. 第二言語習得に関する基本的な知識を身につける。 3. 児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）を身につける。 4. 異文化に関する理解を深める。 5. 授業実践に必要な英語力（CEFR B1レベル）を身につける。 						
<授業の概要>						
絵本・ナーサリーライム・児童文学作品を通して、英語の歴史と特徴、特に音声について学びながら 、英語に関する基本的な知識、児童文学、異文化に関する理解、さらに第二言語習得に関する知識、 授業実践に必要な英語力を育成する。						
<授業計画>						
第1回：オリエンテーション、コミュニケーション能力とグローバリゼーション						
第2回：小学校英語教育の変遷と母語および第2言語習得						
第3回：母語習得とSLAの発達：子どもとことば						
第4回：英語の歴史と特徴：絵本にある英語						
第5回：異文化理解：絵本を楽しむ						
第6回：英語の語彙、文法と構造：絵本とことばの学習						
第7回：絵本の読み聞かせ						
第8回：英語の音声：ナーサリーライムの紹介						
第9回：英語の音声の特徴とナーサリーライム						
第10回：英語の音声の指導：ナーサリーライムの活用						

第1回：英語の児童文学：ストーリテリングが育むもの

第2回：アリスを読む

第3回：活動を体験しながらの英語のやり取り：アリスを使ったパフォーマンス

第4回：パフォーマンスの振り返り

第5回：小学校における外国語コミュニケーションとは（異文化理解とコミュニケーション）

定期試験は実施しない

テキスト

『小学校英語に児童文学を』

吉田真理子、佐藤佳子、執行智子著 春風社 (ISBN: 978-4861107337)

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』

文部科学省 開隆館出版 (ISBN: 978-4304051685)

参考書・参考資料等

『創造的な学びを育む初等英語教育－時代を超えて生き続ける理論と実践－』

津田塾大学言語文化研究所、早期英語教育研究会 朝日出版社 (ISBN: 978-4255012711)

学生に対する評価

以下の方法により評価する。

1. レポート（年間計画・授業案改訂版、最終課題） 30%
2. 模擬授業（パフォーマンスと適切性） 30%
3. 課題（Reflection sheet、課題） 20%
4. 参加度（グループディスカッション、積極性） 20%

授業科目名： 国語科指導法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鬼頭(大原)七美		
			担当形態： 単独		
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校及び中学校 国語）			
施行規則に定める 科目区分又は事項等		小学校：各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 国語（書写を含む。） 中学校 国語：各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校および中学校の学習指導要領国語の目標と内容、指導事項等を理解する。 ・教材研究の方法を知り、それに基づいた学習指導案を作成することができる。 ・模擬授業の実践とその振り返りを通して、国語科指導の実践的技能と態度を身につける。 					
<p>授業の概要</p> <p>小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領を踏まえ、「国語科」の目標と内容および指導事項について理解し、思考力・判断力・表現力の育成のために、主体的に考えることのできる教員の養成を目指す。</p> <p>具体的には、教材研究の方法を知り、授業構成、授業過程、授業計画、留意点、ICT機器の活用などについての知識を身につけ、それらに基づいた学習指導案を作成する能力を養うとともに、模擬授業の実践を通して国語科指導の実践的技能と態度を身につける。小学校低学年から中学1年生くらいまでの学びの連続性を意識した指導法を理解することを主眼とする。</p>					
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（模擬授業日程と教材および学習評価について）</p> <p>第2回：小学校および中学校の学習指導要領の目標と内容</p> <p>第3回：小学校および中学校の国語教科書と教材研究および学習評価</p> <p>第4回：小学校および中学校の国語の指導上の留意点および学習評価</p> <p>第5回：教材研究と指導案の作成および学習評価①—「スーサンの白い馬」—</p> <p>第6回：模擬授業の実践および学習評価①—「スーサンの白い馬」—</p> <p>第7回：教材研究と指導案の作成および学習評価②—「わたしと小鳥のすずと」—</p> <p>第8回：模擬授業の実践および学習評価②—「わたしと小鳥とすずと」—</p> <p>第9回：教材研究と指導案の作成および学習評価③—「ちいちゃんのかげおくり」—</p> <p>第10回：模擬授業の実践および学習評価③—「ちいちゃんのかげおくり」—</p> <p>第11回：教材研究と指導案の作成および学習評価④—「やまなし」—</p>					

第12回：模擬授業の実践および学習評価④—「やまなし」—

第13回：硬筆の指導法と学習評価

第14回：毛筆の指導法と学習評価

第15回：ICTを用いた国語教育定期試験と学習評価について

テキスト なし

参考書・参考資料等

文部科学省編『小学校学習指導要領解説 国語編 平成29年7月』(東洋館出版社、2018年2月)

文部科学省編『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』(東洋館出版社、2018年3月)

学生に対する評価

授業への参加態度・貢献度 40%、リアクションペーパー10%、レポート 50%。

リアクションペーパーや課題について、返却や講評を行うことを通してフィードバックしていく。

授業科目名： 国語科指導法II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 三藤敏樹 担当形態： 単独		
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校及び中学校 国語）			
施行規則に定める 科目区分又は事項等		小学校：各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 国語（書写を含む。） 中学校 国語：各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			
授業のテーマ及び到達目標					
<p>【授業のテーマ】 「言葉による見方・考え方を働きかせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育成する国語科の授業とはどのようなものか。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小学校・中学校・高等学校学習指導要領国語の目標と内容に関する基礎的な内容を理解し、説明することができる。 2) 学習指導要領の目標と内容を、言語活動や教材と結び付けて、学習指導案及び「学びのプラン」を作成することができる。 3) 「国語科」の学習に関心を持ち、主体的に授業づくりに取り組むことができる。 					
<p>授業の概要</p> <p>「国語科指導法I」に引き続き、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領を踏まえ、「国語科」の目標と内容および指導事項について理解し、思考力・判断力・表現力の育成のために、主体的に考えることのできる教員の養成を目指す。</p> <p>具体的には、教材研究の方法を知り、授業構成、授業過程、授業計画、留意点、ICT機器の活用などについての知識を身につけ、それらに基づいた学習指導案を作成する能力を養うとともに、模擬授業の実践を通して国語科指導の実践的技能と態度を身につける。小学校中学年から中学2年生くらいまでの学びの連続性を意識した指導法を理解することを主眼とする。</p>					
<p>授業計画</p> <p>第1回：学習指導要領の目標・内容・全体構造（国語科で育成する資質・能力、学習指導要領の変遷、語彙指導、情報の扱い方等）、背景となる学問領域</p> <p>第2回：カリキュラム・マネジメント（言語環境の整備、言語活動の充実、学校図書館の利活用、社会に開かれた教育課程等）、入門期の学習指導（幼・保と小の接続）</p> <p>第3回：授業づくりと学習評価①</p>					

話すこと・聞くこと「紹介、説明、報告、意見」(学習指導案・「学びのプラン」の作成)

第4回：授業づくりと学習評価②

話すこと・聞くこと「紹介、説明、報告、意見」(模擬授業と振り返り)

話すこと・聞くこと「話し合い」(学習指導案・「学びのプラン」の作成)

第5回：授業づくりと学習評価③

話すこと・聞くこと「話し合い」(模擬授業と振り返り)

書くこと「報告・説明」(学習指導案・「学びのプラン」の作成)

第6回：授業づくりと学習評価④

書くこと「報告・説明」(模擬授業と振り返り)

書くこと「創作」(学習指導案・「学びのプラン」の作成)

第7回：授業づくりと学習評価⑤

書くこと「創作」(模擬授業と振り返り)

読むこと「説明的文章」(学習指導案・「学びのプラン」の作成)

第8回：授業づくりと学習評価⑥

読むこと（説明的文章）(模擬授業と振り返り)

読むこと（文学的文章）(学習指導案・「学びのプラン」の作成)

第9回：授業づくりと学習評価⑦

読むこと（文学的文章）(模擬授業と振り返り)

言葉の特徴や使い方・情報の扱い方・我が国の言語文化(学習指導案・「学びのプラン」の作成)

第10回：授業づくりと学習評価⑧

言葉の特徴や使い方・情報の扱い方・我が国の言語文化(模擬授業と振り返り)

書写(漢字の筆順指導・鉛筆の持ち方指導を含む)(学習指導案・「学びのプラン」の作成)

第11回：授業の方法①(板書、教育話法、話し方、立ち位置、朗読の仕方等)

第12回：授業の方法②(一斉授業・グループ学習・個別指導、ノート指導等)

第13回：授業の方法③(国語科におけるICTの活用、オンライン授業、ローマ字指導<小学校3年でタイピング>との関連等)

第14回：授業の方法④(学校段階間の接続(入門期の言語指導、中学校・高校との接続等)、教科等横断的な指導(言語の教育としての英語活動・英語科との関わり等))

第15回：振り返りとまとめ(発展的な学習内容の探究と学習指導への位置付け、「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業改善に向けて)

テキスト

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』 文部科学省 東洋館出版社

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』 文部科学省 東洋館出版社

『資質・能力を育成する授業づくりと学習評価 中学校国語』 三藤敏樹・山内裕介・高木展郎 東

洋館出版社

参考書・参考資料等

『評価が変わる、授業を変える』 高木展郎 三省堂

学生に対する評価

授業への参加姿勢・態度、学習指導案の作成、模擬授業への取組、授業中の成果物（各回の振り返り等）に基づき、総合的に評価する。

授業科目名： 社会科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森清隆			
			担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 社 会					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校社会科の目標、内容及び指導方法・評価方法を理解する。 ○児童や地域の実態に応じた教材を考え、社会科の指導計画及び学習指導案を作成することができる。 ○単元の指導目標に即した教材・教具を作成し、授業で活用することができる。 ○社会科における具体的な指導技術、評価技術を身に付ける。 						
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会科の指導理論と学習内容、教材について、学習指導要領を基に整理する。その上で、社会科教育の課題を踏まえ、具体的な指導方法と評価方法を学ぶ。 ○演習では、グループに分かれて領域ごとの指導計画と一単位時間の指導計画を作成し、模擬授業を行う。それを基に、社会科の指導と評価の在り方について討議する。 						
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション～社会科の授業づくりに向けて 「よりよい社会科授業」について考える</p> <p>第2回：社会科の指導内容を構造的に理解する。</p> <p>第3回：社会科授業づくりの基礎・基本～単元の問題解決的な学習過程をつかむ</p> <p>第4回：学習指導案の作成①～学習指導案の構成と「単元観」の作成</p> <p>第5回：学習指導案の作成②～「単元の目標」の設定と学習評価について</p> <p>第6回：学習指導案の作成③～「単元の評価規準」の設定について</p> <p>第7回：多様な学習活動①～デジタル教科書の活用について</p> <p>第8回：多様な学習活動②～一人1台端末を活用した授業実践から</p> <p>第9回：学習指導案の作成④～「単元指導計画」の作成について</p> <p>第10回：学習指導案の作成⑤～「本時案」の作成について</p> <p>第11回：模擬授業①～第3学年の模擬授業</p>						

第12回：模擬授業②～第4学年の模擬授業

第13回：模擬授業③～第5学年の模擬授業

第14回：模擬授業①～第6学年の模擬授業

第15回：論述試験、「よりよい社会科授業」を考える

テキスト

- 「小学校指導要領（平成29年告示）解説 社会科編」文部科学省
- 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校 社会」国立教育政策研究所
- 小学校社会科教科書「新編 新しい社会 3年 4年 5年上下 6年上下」教育出版

参考書・参考資料等

- 「小学校社会科 学習指導案 文例集」澤井陽介・廣嶋憲一郎編著 東洋館出版社

学生に対する評価

〔評価方法〕・平常点 20% ・レポート 20% ・学習指導案作成 30% ・論述試験 30%

授業科目名： 算数科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神保勇児					
			担当形態： 単独					
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）						
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 算 数							
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、算数教育の目標、算数の5領域「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の指導の系統と各学年における指導内容について理解を深めていく。そして、学習指導案を作成し模擬授業を行うことで、算数の指導に関わる基本的知識の習得と、実践的指導力の醸成を目的とする。さらに算数教育の歴史についても学び、算数を学ぶ意義や役割について考えていく。本授業の到達目標は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 算数教育の意義と役割、算数の目標について理解する。 ② 各領域の指導系統と各学年の指導内容について理解する。 ③ 算数の学習指導案を書けるようになり、算数の授業ができるようになる。 								
<p>授業の概要</p> <p>始めに、算数で大切にしている数学的な見方・考え方について理解していく。算数の目標、5つの領域「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」と各学年における指導内容の概略について講義を行う。また、低学年の例として1年生の教科書、高学年の例として5年生の教科書について、学習内容、学習課題の設定の仕方、指導計画、習熟のさせ方、スパイラルに構成されている単元の組み立てなどを見ていく。講義の後半は、教材研究の仕方を知り、学習指導案を作成し、模擬授業の実施とその振り返りを通して、算数の具体的な指導法を体得していく。</p>								
<p>授業計画</p> <p>第1回：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○この授業の概要 ○算数教育の目標について <p>第2回：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○算数の指導の工夫と陥りやすい問題点について ○学習指導要領に見る小学校算数の学習内容と領域 <ul style="list-style-type: none"> ・算数教育の目標について ・学習指導要領の各領域の学年ごとの内容を大まかにつかむ <p>第3回：</p>								

○算数の指導案の書き方

- ・問題解決型学習のポイントをつかむ
- ・標準的な算数の指導案の書き方をつかむ

第4回：

○教科書会社の公開している資料を見る

○1年生の教科書を見ながら、低学年の学習内容と指導のポイントをつかむ

○学習評価について

第5回：

○5年生の教科書を見ながら高学年の学習内容と指導のポイントをつかむ

○2、3、4、6年生の算数の学習内容と指導のポイントをつかむ

○学習評価について

第6回：

○教材研究の仕方

- ・教科書の比較の方法、発問の工夫について

○算数におけるICTの活用

- ・デジタル教科書の活用やプログラミングについて

第7回：

○算数教育の歴史

- ・昭和33年以降の算数教育の歴史について

- ・算数教育の目標の変遷

- ・昔の算数の教科書の問題を解いてみる

○ここまで学習内容の確認の小テスト、またはレポート

第8回：

○1年生の学習

- ・数と計算領域の模擬授業（1学期単元）

第9回：

○1年生の学習

- ・数と計算領域の模擬授業（2学期単元）

第10回：

○1年生の学習

- ・数と計算領域の模擬授業（3学期単元）

第11回：

○1年生の学習

- ・測定、データの活用、図形領域の模擬授業

第12回：

○5年生の学習

- ・数と計算領域の模擬授業と講義

第13回：

○5年生の学習

- ・図形領域の模擬授業と講義

第14回：

○5年生の学習

- ・変化と関係領域の模擬授業と講義

第15回：

○5年生の学習

- ・データの活用領域等の模擬授業と講義

○この講義のまとめ

- ・最終レポート（修正指導案など）

テキスト

小学校学習指導要領解説 算数編 文部科学省 [最新版]

1年生の算数の教科書（『わくわくさんすう1』啓林館を使用する）

5年生の算数の教科書（『わくわく算数5』啓林館を使用する）

参考書・参考資料等

<学習指導要領関連>

『小学校学習指導要領』（平成29年告示）

https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf

『小学校学習指導要領解説（算数編）』（平成29年告示）

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afIELDfile/2019/03/18/1387017_004.pdf

「指導と評価の一体化」ための学習評価に関する参考資料 小学校 算数

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_sansu.pdf

<文科省検定済み教科書 1~6年>

『わくわく算数』（啓林館）

『新しい算数』（東京書籍）

『たのしい算数』（大日本図書）

『みんなと学ぶ 小学校 算数』（学校図書）

『小学 算数』（教育出版）

『小学算数』(日本文教出版)

<その他>

『算数教育指導用語辞典 第五版』(教育出版／日本数学教育学会)

『算数ファシリテーション入門』(東洋館出版社／神保勇児)

学生に対する評価

①評価方法：講義への参加態度と毎時間の課題、学習指導案と模擬授業、学習確認小テストまたはレポート、最終レポートで評価する。

②配点：平常点（約30%）、学習指導案と模擬授業（約40%）、学習内容確認小テストまたはレポート（約10%）、最終レポート（約20%）を総合的に評価する。

③各課題や模擬授業について、授業中にコメントや解説を行う。

授業科目名： 理科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中林俊明			
			担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 理 科					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>小学校理科の目的、目標やカリキュラムについて理解し、各単元の中で身につけさせるべき本質的概念を見極め、その単元の位置づけを認識することができる。日本における科学教育としての理科について理解することができる。学習活動計画を立案し模擬授業を実施することで教師としての基本的な授業力を高めることができる。理科教育について関心を高め、学びとしての理科について考えることができる。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>前半は日本型理科教育を理解するための演習や講義を中心に実施する。その中では、学習指導要領、学習論、科学論や理科を取り巻く国際調査等について概観する。後半は、グループごとに教材研究を行い、模擬授業を実施する。実施する単元についてグループで協議して選択する。そして、学習指導要領、各社の教科書や先行的実践報告等を比較し、わかる授業や生きる力の観点から検討する。学生を児童・生徒に見立てて行う授業は小学校の内容を行う。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスー講義の内容と目標</p> <p>第2回：理科の学習論の概要</p> <p>第3回：初等理科教育の変遷ー学習指導要領と理科の目標</p> <p>第4回：理科を取り巻く現代的な課題、理科と情報通信技術の活用</p> <p>第5回：理科教育と仮説演繹法</p> <p>第6回：理科授業の構想と実践の要件および学習評価ー授業VTRの検討</p> <p>第7回：学校と科学館との連携ー演習・学習プラン作り(多摩六都科学館見学)</p> <p>第8回：教科書の比較検討および学習評価ー複数の教科書から指導法を探る</p> <p>第9回：学習指導案検討と模擬授業の準備</p> <p>第10回：第3学年の学習内容の模擬授業と相互評価</p> <p>第11回：第4学年の学習内容の模擬授業と相互評価</p> <p>第12回：第5学年の学習内容の模擬授業と相互評価</p>						

第13回：第6学年の学習内容の模擬授業と相互評価

第14回：模擬授業を通した授業改善について

第15回：講義のまとめ（理科教育について考える）

筆記試験

テキスト

「小学校学習指導要領解説(理科)」文部科学省（大日本図書）[最新版]

「学習指導要領対応小学校理科観察実験セーフティマニュアル新訂版」

(大日本図書教育研究室、大日本図書)

参考書・参考資料等

参考文献：『「理科」の再発見－異文化としての西洋科学－』小川正賢著（農山漁村文化協会）

学生に対する評価

授業への参加・貢献度10%、授業計画・学習指導案作成20%・模擬授業20%、筆記試験50%として判断する。授業中にコメントやリプライを行う。

授業科目名： 生活科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中林俊明			
			担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 生 活					
授業のテーマ及び到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活科の目標、内容及び指導方法、評価方法を理解する。 2. 生活科の指導計画及び学習指導案を作成することができる。 3. 単元の目標や内容、児童の実態に応じて教材を選択し、準備することができる。 4. 生活科教育の指導技術と評価技法を習得する。 						
授業の概要						
<p>本科目では、生活科の教育方法について指導計画の作成と授業実践の両面から学ぶ。まずは、生活科の目標と内容、教材選択、内容の取扱いの要点を理解し、子どもの学びを引き出す学習指導と評価方法を学ぶ。加えて、教材の選択と準備について、実際に即して検討する。さらに、年間の指導計画と単元の指導計画をふまえて1単位時間の学習指導案を準備し、模擬授業を行う。一連の学修をふまえて、生活科の指導と評価の在り方について検討する。</p> <p>なお、生活科の教科観を理解したりその具体的な指導法を検討したりするため、玉川上水周辺を教材とした学外調査とそれを基にしたアクティブラーニングを実施する。</p>						
授業計画						
第1回：オリエンテーション 生活科について 第2回：生活科の目標と具体的な指導法の検討 第3回：生活科の内容とその取扱い 第4回：生活科の学習指導の特徴 第5回：生活科の教材研究、生活科と情報通信技術の活用 第6回：生活科の評価 第7回：指導計画の作成①：年間指導計画 第8回：指導計画の作成②：単元計画と学習指導案 第9回：生活科の授業づくりと模擬授業①：学校生活に関わる活動 第10回：生活科の授業づくりと模擬授業②：身近な自然や季節に関わる活動 第11回：生活科の授業づくりと模擬授業③：身近な自然や物を使って遊びを創り出す活動						

第12回：生活科の授業づくりと模擬授業④：地域に関わる活動

第13回：生活科の授業づくりと模擬授業⑤：公共物や公共施設を利用する活動

第14回：生活科の授業づくりと模擬授業⑥：自分自身の成長を振り返る活動

第15回：まとめ：これから的生活科の展望

筆記試験

テキスト

小学校学習指導要領解説 生活編 文部科学省[最新版]

生活科教科書（詳細な書名は、おって指示する）

参考書・参考資料等

気づきの質を高める生活科指導法 原田信之、須本良夫、友田靖雄編著、東洋館出版社

学生に対する評価

筆記試験（生活科教育に関する基礎的理解）50%，模擬授業（授業準備、学習指導案、実施記録と振り返り（評価と改善案））30%，授業への参加態度（授業への貢献や意欲的な態度）20%を評価する。
授業中にコメントやリプライを行う。

授業科目名： 音楽科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本由紀子			
			担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 音 楽					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>小学校学習指導要領を理解し、児童らの豊かな音楽経験実現のための基礎力・応用力を身につけることを目標とする。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>小学校音楽科が目指すもの、それに必要な音楽の専門知識を習得する。具体的には学習指導要領における目標の理解と、音楽科全体に関わる共通事項の理解である。目標が述べていることの意味を自分なりに考え、解釈した上で、自分が小学校音楽科で子どもたちに何を伝えていくかを確立する。また、具体的な実践例を踏まえた上で、共通事項の理解を深め、教材研究を行う。最終的には評価方法とともに、それらを文章化する作業である指導案の書き方を学び、模擬授業を計画・実践する。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、音楽科目標について</p> <p>第2回：共通事項①（音楽を形作っている要素、音楽の仕組み）</p> <p>第3回：共通事項②（曲想、音楽の構造、音符・休符・記号や用語）</p> <p>第4回：歌唱活動の意義と内容</p> <p>第5回：器楽活動の意義と内容</p> <p>第6回：音楽づくりの意義と内容</p> <p>第7回：鑑賞の意義と内容</p> <p>第8回：指導計画上の配慮事項について（ICTの活用、我が国や郷土の音楽、多様な音楽）</p> <p>第9回：評価方法について</p> <p>第10回：指導案作成方法①（作成上の配慮事項）</p> <p>第11回：指導案作成方法②（ひな型を基に作成）</p> <p>第12回：外部講師による邦楽演習①（箏）</p> <p>第13回：外部講師による邦楽演習②（三味線）</p> <p>第14回：模擬授業発表①（1～3年生）</p>						

第15回：模擬授業発表②（4～6年生）

テキスト

最新 初等科音楽教育法、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編、文部科学省

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

提出物40%、模擬授業等の発表60%。出席しているから、提出物をすべて出したから、必ず単位がとれるとは限りません。取り組み内容によって評価します。

【フィードバックの方法】発表については随時授業内でコメントします。それ以外の評価については、希望者には個別に対応します。

授業科目名： 図画工作科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 清家颯			
			担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 図画工作					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 造形活動の歴史や様々な考え方を広く考察することを通して、子供の日常世界から生まれる表現活動の意義を捉えること。</p> <p>2. 図画工作科の目標、教育内容・方法（実際の授業例や指導法など）の全体像を現在の学校と社会の中で捉えること。</p> <p>3. 現代的課題や学習指導要領が示す意義を踏まえ、具体的な図画工作科の活動の在り方を考えたり、自分なりの授業を構想したりして、実践指導力・授業改善力を養う視点をもつこと。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>様々な資料や講話、小学校図画工作科の題材・教材研究の事例、実践的体験活動を通して、造形表現や図画工作科の特性、子供の思考・判断・表現、知識・技能などに関わりながら考察と理解をすすめていく。前半では、ビデオ教材や作品、資料、講話や対話等を通して、造形活動の歴史や意義を踏まえつつ、図画工作科教育の今日的課題や位置づけ、目的を学習していく。後半では、図画工作科の教育内容・方法（学習指導要領の理解を含む）及び授業構想や題材研究等について教材や資料等を活用しながら検討し（情報機器及び教材の活用を含む）、現在の学校・社会と子供を起点に実際の授業の姿を捉えていく。</p>						
<p>第1回 オリエンテーション（図画工作科の今日的課題や動向）</p> <p>第2回 美術教育の歴史と理念</p> <p>第3回 図画工作科教育の歴史と理念</p> <p>第4回 子供を取り巻く諸問題と造形活動、題材・教材研究：子供の身体、内面、嗜好、個性、発達等とのかかわりから</p> <p>第5回 図画工作科の学習指導要領とその構造：資質・能力及び造形的な見方・考え方等</p> <p>第6回 内容と方法①造形遊びをする（情報機器及び教材の活用を含む）</p> <p>第7回 内容と方法②絵に表わす（情報機器及び教材の活用を含む）</p> <p>第8回 内容と方法③立体・工作に表わす（情報機器及び教材の活用を含む）</p> <p>第9回 内容と方法④鑑賞（情報機器及び教材の活用を含む）</p>						

第10回 図画工作科の指導計画と評価

第11回 模擬授業づくりに向けた準備①：学習指導案の作成

第12回 模擬授業づくりに向けた準備②：題材づくり

第13回 模擬授業の実施及び題材研究と教師の働きかけ（情報機器及び教材の活用を含む）発表①

前半グループ

第14回 同上 発表② 後半グループ

第15回 まとめ（図画工作科教育とは）・授業の振り返り

定期試験は実施しない（最終レポートに代える）

テキスト

『小学校学習指導要領解説－図画工作編』（平成29年3月告示 文部科学省）ほか

参考書・参考資料等

大橋功（編），2018，『美術教育概論（新訂版）』，日本文教出版

新野貴則・福岡知子（編），2019，『明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質・能力を育む図画工作科教育法』，萌文書林 ほか

学生に対する評価

【評価方法と割合】レポート等（授業担当者が別途指示する）（30%）のほか、参加、グループワークや口頭発表（40%）、最終段階での提出レポートの内容（30%）により、総合的に判断する。

【評価規準・評価基準】各授業で提示する到達目標（及びループリック）に準拠。

【フィードバックの方法】主に授業中にコメントする。

授業科目名： 家庭科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福留奈美			
			担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 家 庭					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校教育における家庭科の意義を理解する。 ○小学校における家庭科の目的、教育内容、指導法を理解する。 ○指導計画を作成し、必要な教材類や板書計画等について具体的に考えられるようになる。 						
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校教育全体における家庭科のあり方・位置づけについて、考察する。 ○小学校における家庭科の教育内容、指導法の理解をすすめ、家庭科教育の実際を知る。 ○個人で年間カリキュラムと学習指導案を作成し、活動に応じた教材・教具、板書計画などの発表を行う。 ○グループで模擬授業を行ない、授業実践の具体的な方策を考える。 						
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、家庭科学習指導要領の概要</p> <p>第2回：学習指導要領と教科書の構成および学習評価</p> <p>第3回：学習指導要領に合わせた活動案を考える（学習評価を含む）</p> <p>第4回：各分野（家族・家庭、衣食住、消費・環境）の活動と学習評価案（個人発表）</p> <p>第5回：家族・家庭生活における要点と教材例</p> <p>第6回：消費生活・環境と他領域との連動</p> <p>第7回：授業計画と指導案作成1（食生活分野の基礎知識と背景）</p> <p>第8回：授業計画と指導案作成2（実践および指導案とICTの活用事例）</p> <p>第9回：授業のユニバーサルデザイン化と板書計画、ICTを活用した教材開発</p> <p>第10回：年間指導計画の立案、授業計画と指導案の改善および学習評価</p> <p>第11回：教材・教具研究－個人発表と講評 前半－</p> <p>第12回：教材・教具研究－個人発表と講評 後半－</p> <p>第13回：模擬授業－グループ発表 前半－</p> <p>第14回：模擬授業－グループ発表 後半－</p>						

第15回：小学校における家庭科教育の振り返りとまとめ

テキスト

「小学校学習指導要領解説・家庭編」（文部科学省、東洋館出版社）[最新版]

「わたしたちの家庭科5・6」（小学校家庭科教科書、開隆堂）

「新しい家庭5・6」（小学校家庭科教科書、東京書籍）

参考書・参考資料等

「実践的指導力をつける家庭科教育法」（多々納道子、伊藤圭子、大学教育出版）

「新版 授業力UP 家庭科の授業」（伊藤葉子、日本標準）

「アクティブラーニングを活かした家庭科の授業開発—「深い学び」に向けて」（日本家庭科教育学会中国地区会、教育図書）

「小学校家庭科教育法」（大竹美登利ほか、建帛社）

学生に対する評価

- ・発表40%
- ・レポート50%
- ・平常点10%
- ・発表は、発表資料の準備状況とプレゼンテーション方法・内容から多面的に評価する。
- ・レポートは、最終的な提出物に加え、準備段階での取り組み状況から多面的に評価する。
- ・平常点は、授業内での発言やコメントシート等を総合的に評価する。
- ・フィードバックは、発表時の講評、年間カリキュラム・指導案の個別指導、その他提出物についての講評等を授業内で行う。